

令和4年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校農学部野菜科

1 目的

農大では根深ねぎの春まき冬どり栽培に取り組んでいるが、除草作業に多くの労力が必要である。また、高温期の軟腐病等による欠株の発生やアザミウマの食害、高温・乾燥による生育遅延が問題となっている。

そこで、大麦のリビングマルチ栽培に取り組み、雑草抑制効果、病害虫の発生抑制、地温上昇抑制による生育促進等の効果の検討と根深ねぎ4月まき栽培での大麦のは種適期を明らかにする。

2 実施状況

(1)大麦供試品種:てまいらず(カネコ種苗)

(2)大麦6月は種(根深ねぎ6月中旬定植)

大麦を6月6日、10日、16日、17日、24日には種し、は種5日後には発芽が揃った。当初は順調な生育であったが、6月下旬に雑草が発生し、7月には雑草が強く繁茂し、風通しが悪くなり蒸れて大麦が枯死した。大麦の雑草抑制効果は確認できず、大麦の6月は種は適さないことがわかった。

(3)大麦7月26日は種(根深ねぎ6月定植)

は種5日後には発芽するも高温の影響で生育は悪く、枯死した。

(4)大麦8月24日は種(根深ねぎ7月中旬定植)

発芽は極めて悪かった。高温の影響と考えられる。

(5)大麦9月24日、10月16日、11月11日は種(根深ねぎ8月、11月定植)

は種7~10日後に発芽し、その後の生育は順調であり、雑草抑制効果があると思われる。しかし、ねぎの土寄せ作業に支障をきたすため除去した。

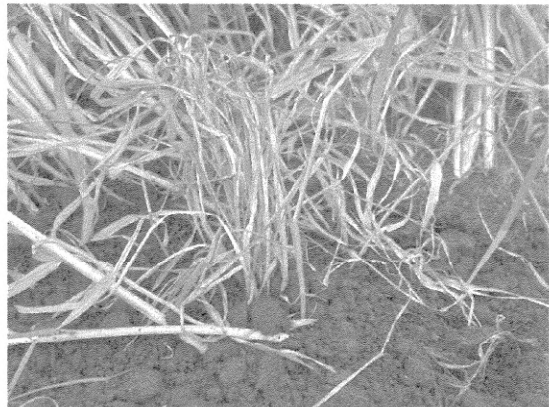
(6)大麦12月30日、1月15日、2月12日は種(根深ねぎ12月および1月定植)

発芽および生育は順調であり、3月22日現在の大麦の草丈は12月30日は種で45cm、1月15日は種で35cm、2月12日は種で18cmであり、雑草の抑制効果が期待できる。

今後、大麦の生育状況と根深ねぎの土寄せ作業への影響を見ていく必要がある。



6月上旬は種大麦(は種後10日目)



枯死した大麦



12月下旬は種大麦(3月下旬)



1月は種大麦(3月下旬)

3 今後の課題、取り組み

根深ねぎの土寄せ作業と大麦の生育状況(草丈および枯死期)の把握